



第 108 回全国算数・数学教育研究（東京）大会
第 81 回関東甲信静数学教育研究東京大会

開催ご案内

（第 1 次案内）

日本数学教育学会会員様
全国各教育委員会様
全国各学校長・幼稚園長様
全国算数・数学教育関係者様

主 催 （公 社）日 本 数 学 教 育 学 会 関東都県算数数学教育研究会連合会
（予定）
共 催 東京 都 算 数 教 育 研 究 会 東京 都 中 学 校 数 学 教 育 研 究 会
（予定） 東京 都 高 等 学 校 数 学 教 育 研 究 会
後 援 文 部 科 学 省 東京 都 教 育 委 員 会
（予定） 世 田 谷 区 教 育 委 員 会 東京 私 立 幼 稚 園 連 合 会
東京 私 立 初 等 学 校 協 会 東京 私 立 中 学 高 等 学 校 協 会
（独）国立高等専門学校機構 （大）東京 都 公 立 大 学 法 人
（学）大妻女子大学 学習院大学 国士舘大学
（学）実践女子大学 （学）昭和女子大学 （学）成城学園
成城大学 （学）創価大学 （学）帝京大学
（学）帝京平成大学 （学）東京家政大学 （大）東京学芸大学
（学）日本女子大学 日本体育大学 （学）日本大学
（学）文京学院 明星大学 明治大学
目白大学

このたび、第 108 回全国算数・数学教育研究（東京）大会 を、令和 8（2026）年 8 月 6 日（木）、7 日（金）に開催する運びとなりました。また、8 月 3 日（月）、4 日（火）には、オンラインにて講習会を実施いたします。本大会の研究主題は、「世界に誇る算数・数学教育で豊かな社会を創るーすべての子どもの学びの最大化をめざしてー」です。変化の激しい現代社会において、誰一人取り残さず、持続可能で多様性と包摂性に富んだ社会を築くことは、私たち一人ひとりが主体的に考えるべき重要な課題です。そのために、算数・数学教育をいかにアップデートしていくべきかを議論し、未来に向けた新たな視点をを得る場となることを願っております。本大会の開催にあたり、関係諸機関・諸団体の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、全国各地から多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日本数学教育学会長 清水 美憲
東京大会準備委員長 西村 圭一

【1】研究主題

世界に誇る算数・数学教育で豊かな社会を創るーすべての子どもの学びの最大化をめざしてー

【2】日 程 令和8年(2026年)

		9:00	9:30	11:20	12:30	14:20	14:40	16:30
講習会	8 月 3 日(月)	受付	講習会（Ⅰ）	昼食 休憩	講習会（Ⅱ）	休憩	講習会（Ⅲ）	
	8 月 4 日(火)	受付	講習会（Ⅳ）	昼食 休憩	講習会（Ⅴ）	休憩	講習会（Ⅵ）	
		9:00	9:30	12:40	14:30	14:50	16:40	
大会	8 月 6 日(木)	受付	開会式・記念講演	昼食 休憩	シンポジウム	休憩	部会講演	
	8 月 7 日(金)	受付	分科会（Ⅰ） ポスターセッション（Ⅰ） 高専・大学部会（Ⅱ）	昼食 休憩	分科会（Ⅱ） ポスターセッション（Ⅱ） 高専・大学部会（Ⅲ）	移動	閉会式	
		9:00	9:30	12:25	13:30	15:40	16:20	17:00
会議	8 月 5 日(水)			13:00	14:00			
				関東甲信静 代表者会議				

【3】会 場（予定）

講習会……………オンライン
 幼稚園・小学校部会講演……………成城学園初等学校講堂
 中学校部会講演……………成城学園澤柳記念講堂
 高等学校部会講演……………成城学園中学校・高等学校
 高専・大学部会……………成城学園法人事務局棟大会議室
 閉会式……………成城学園中学校・高等学校

開会式・記念講演・シンポジウム……………成城学園澤柳記念講堂
 幼稚園・小学校部会分科会……………成城学園初等学校
 中学校部会分科会……………成城学園中学校・高等学校
 高等学校部会分科会……………成城学園中学校・高等学校
 関東甲信静代表者会議……………オンライン

※関東甲信静代表者会議は、オンライン会議形式で開催します。
 ※大会事務引継会は、大会終了後にオンライン会議形式で開催します。

【4】大会参加費（下記金額には消費税が含まれています）

事前参加費：一般 5,000 円 会員 4,300 円 学生会員 2,500 円 市民（教員を除く）2,000 円

当日参加費：一般 5,500 円 会員 4,800 円 学生会員 3,000 円 市民（教員を除く）2,000 円

【5】分科会（研究内容例）

【A】幼稚園・小学校部会		
No.	分科会	研究内容例
1	教育課程・評価	○全学年を通したスパイラルな指導計画 ○資質・能力の育成をめざしたカリキュラム開発 ○資質・能力を評価するための評価規準やルーブリックの開発 ○授業改善に生かす評価の研究
2	学習支援	○支援の必要な児童に対する算数の指導計画と実践 ○支援の必要な児童に対する学習環境や支援の工夫 ○学習支援への ICT の効果的な活用 ○少人数指導，習熟度別指導，TT 指導，複式学級における指導の工夫等
3	幼児教育	○遊びを通した算数の素地となる資質・能力の育成 ○幼稚園・保育園・こども園と小学校の連携
4	数と計算	○数学的活動を生かした数と計算の指導 ○数の概念とその指導 ○演算決定能力を育てる指導 ○計算原理と形式的な処理の指導 ○言語活動に視点をあてた数と計算の指導 ○数と計算領域の教材研究
5	図形	○数学的活動を生かした図形の指導 ○図形概念形成を図る指導 ○筋道立てて説明する力を育成する図形の指導 ○言語活動に視点をあてた図形の指導 ○図形領域の教材研究
6	測定	○数学的活動を生かした測定の指導 ○豊かな量感覚を育てる指導 ○言語活動に視点をあてた測定の指導 ○測定領域の教材研究
7	変化と関係	○数学的活動を生かした変化と関係の指導 ○関数の考えを育てる指導 ○言語活動に視点をあてた変化と関係の指導 ○変化と関係領域の教材研究
8	データの活用	○統計的な見方・考え方や処理に関する指導 ○統計的な問題解決の方法（統計的探究プロセス）を通したデータの活用の指導 ○言語活動に視点をあてたデータの活用の指導 ○データの活用領域の教材研究
9	問題解決・課題学習	○問題解決力を育てる指導 ○自力解決と集団解決のあり方とその指導 ○豊かな発想を引き出す指導 ○問題発見力を育てる指導 ○個別最適な学びと協働的な学びの実現

10	数学的な見方・考え方	○思考力・判断力・表現力等を育てる指導 ○数学的な見方や考え方を豊かにする指導 ○数学的な見方や考え方を活用することのよさを実感できる指導
11	学習指導法	○主体的・対話的で深い学びの実現 ○算数への関心や学習意欲を育てる指導 ○数学のよさや楽しさを実感する指導 ○指導と評価の一体化の実現
12	ICTの活用・プログラミング教育	○1人1台端末環境下やデジタル教科書等を活用した実践 ○ICT等の教育機器を効果的に活用した指導 ○ICTを活用した教材の開発と研究 ○小学校算数科におけるプログラミング教育 ○個を生かす ICT 活用の工夫
13	教科横断的な指導	○総合的な学習の時間との連携 ○日常生活や社会事象の問題解決や活用に焦点をあてた指導 ○STEM, STEAM 教育や SDGs に関連した算数科の実践
14	基礎・自由研究	○算数教育論，算数教育史に関する研究 ○心理学・教育学とのかかわりについての研究 ○発展教材の開発 ○その他の自由研究

【B】中学校部会		
No.	分科会	研究内容例
1	教育課程・評価	○全学年を通したスパイラルな指導計画 ○資質・能力の育成をめざしたカリキュラム開発 ○資質・能力を評価するための評価規準やルーブリックの開発 ○授業改善に生かす評価の研究
2	学習支援	○支援の必要な生徒に対する数学の指導計画と実践 ○支援の必要な生徒に対する学習環境や支援の工夫 ○学習支援への ICT の効果的な活用 ○少人数指導，習熟度別指導，TT 指導，複式学級における指導の工夫等
3	数と式	○数学的活動を生かした数と式の指導 ○数概念の拡張を図るための指導 ○言語活動に視点をあてた数と式の指導 ○数と式領域の教材研究
4	図形	○数学的活動を生かした図形の指導 ○直観力や論理的思考力を育てる指導 ○証明にかかわる指導 ○言語活動に視点をあてた図形の指導 ○図形領域の教材研究

5	関数	○関数的な見方や考え方を育てる指導 ○関数を活用した問題解決にかかわる指導 ○言語活動に視点をあてた関数の指導 ○関数領域の教材研究
6	データの活用	○統計的な見方・考え方を育てる指導 ○統計的な問題解決の方法（統計的探究プロセス）を通じたデータの活用の指導 ○データの傾向を捉え説明できる力を育む指導 ○批判的思考を育てる指導 ○言語活動に視点をあてたデータの活用の指導 ○データの活用領域の教材研究
7	問題解決・課題学習	○問題解決力を育てる指導 ○自力解決と集団解決のあり方とその指導 ○豊かな発想を引き出す指導 ○問題発見力を育てる指導 ○個別最適な学びと協働的な学びの実現
8	数学的な見方・考え方	○思考力・判断力・表現力等を育てる指導 ○数学的な見方や考え方を豊かにする指導 ○数学的な見方や考え方を活用することのよさを実感できる指導
9	学習指導法	○主体的・対話的で深い学びの実現 ○数学への関心や学習意欲を育てる指導 ○数学のよさや楽しさを実感する指導 ○指導と評価の一体化の実現
10	ICTの活用	○1人1台端末環境下やデジタル教科書等を活用した実践 ○ICT等の教育機器を効果的に活用した指導 ○ICTを活用した教材の開発と研究 ○個を生かすICT活用の工夫
11	教科横断的な指導	○総合的な学習の時間との連携 ○日常生活や社会事象の問題解決に焦点をあてた指導 ○STEM,STEAM教育やSDGsに関連した数学科の実践
12	基礎・自由研究	○数学教育論に関する研究 ○数学教育史に関する研究 ○発展教材の開発 ○その他の自由研究

5	数学Ⅲ	○数学的活動を生かした数学Ⅲの指導 ○極限の指導 ○微分法・積分法の指導
6	数学A	○数学的活動を生かした数学Aの指導 ○場合の数と確率の指導 ○図形の性質の指導 ○数学と人間の活動の指導
7	数学B・数学C	○数学的活動を生かした数学B・数学Cの指導 ○数列の指導 ○統計的な推測の指導 ○数学と社会生活の指導 ○ベクトルの指導 ○平面上の曲線と複素数平面の指導 ○数学的な表現の工夫の指導
6	問題解決・課題学習	○問題解決力を育てる指導 ○自力解決と集団解決のあり方とその指導 ○豊かな発想を引き出す指導 ○問題発見力を育てる指導 ○個別最適な学びと協働的な学びの実現
7	数学的な見方・考え方	○思考力・判断力・表現力等を育てる指導 ○数学的な見方や考え方を豊かにする指導 ○数学的な見方や考え方を活用することのよさを実感できる指導
8	学習指導法	○主体的・対話的で深い学びの実現 ○数学への関心や学習意欲を育てる指導 ○数学のよさや楽しさを実感する指導 ○数学史を活用した指導 ○指導と評価の一体化の実現
9	ICTの活用	○1人1台端末環境下やデジタル教科書等を活用した実践 ○ICT等の教育機器を効果的に活用した指導 ○ICTを活用した教材の開発と研究 ○個を生かすICT活用の工夫
10	教科横断的な指導	○理数探究，総合的な探究の時間との連携 ○日常生活や社会事象の問題解決に焦点をあてた指導 ○STEM,STEAM教育やSDGsに関連した数学科の実践
11	専門学科・総合学科等での指導	○学科の特色を生かす指導 ○専門科目の内容と関連させた指導
12	大学入試と高大接続	○大学入試と教育課程 ○大学入試問題を活用した指導 ○高大連携の取り組みに関する研究
13	基礎・自由研究	○数学教育・数学史に関する研究 ○発展教材の開発 ○その他の自由研究

【C】高等学校部会

No.	分科会	研究内容例
1	教育課程・評価	○課程・学会の特色を生かした教育課程 ○中高の学びをつなげるための教育課程 ○全学年を通じたスパイラルな指導計画 ○資質・能力の育成をめざしたカリキュラム開発 ○資質・能力を評価するための評価規準やルーブリックの開発 ○授業改善に生かす評価の研究
2	学習支援	○支援の必要な生徒に対する数学の指導計画と実践 ○支援の必要な生徒に対する学習環境や支援の工夫 ○学習支援へのICTの効果的な活用 ○少人数指導，習熟度別指導，TT指導，複式学級，遠隔教育における指導の工夫等
3	数学I	○数学的活動を生かした数学Iの指導 ○数と式の指導 ○集合と論証の指導 ○二次関数の指導 ○図形と計量の指導 ○データの分析の指導
4	数学II	○数学的活動を生かした数学IIの指導 ○いろいろな式の指導 ○図形と方程式の指導 ○三角関数・指数関数・対数関数の指導 ○微分・積分の考えの指導

【D】高専・大学部会

研究内容例
○数学教育でのアクティブ・ラーニング等の指導法の工夫 ○高専・大学での数学基礎教育に係る教材開発と実践 ○ICTを利用した教材の開発または活用実践 ○TA・SA等を活用した学生への学習支援の方法と実践 ○教育学部・理工系学部における教員養成に関わる諸問題 ○高専・大学における数学基礎教育の諸課題 ○理工系の数学に関する諸問題

【6】講習会

- 1.期 日 令和8年8月3日(月)～8月4日(火)
2.会 場 オンライン
3.講習内容 算数・数学教育講座ならびに教養講座
4.募集人数 小学校・中学校・高等学校 制限なし
5.受講料 一般 2,500 円 会員 2,000 円
市民・学生会員(教員を除く) 1,000 円
(上記金額には消費税が含まれています)
6.備 考 各講師の講義題目、申し込み方法等につ
きましては、第2次案内および日本数学
教育学会誌でご案内いたします。

[講習会講師]

- 小 学 校 笠井 健一(元国立教育政策研究所)
青山 和裕(愛知教育大学)
日野 圭子(宇都宮大学)
松島 充(香川大学)
市川 啓(宮城教育大学)
清野 辰彦(東京学芸大学)
中 学 校 水谷 尚人(文部科学省)
辻山 洋介(千葉大学)
田中 義久(弘前大学)
中川 裕之(東京理科大学)
服部 裕一郎(岡山大学)
小岩 大(東京学芸大学)
高等学校 小林 廉(国立教育政策研究所)
高橋 聡(文部科学省)
岩田 耕司(福岡教育大学)
塩澤 友樹(芝浦工業大学)
市原 一裕(日本大学)
成田 慎之介(東京学芸大学)

【7】講師

[全体講演] 稲葉 寿 (東京大学名誉教授)

[部会講演]

- 小 学 校 布川 和彦(上越教育大学)
中 学 校 清水 宏幸(山梨大学)
高等学校 川添 充 (大阪公立大学)

【8】研究発表申し込み方法

研究発表、ポスター発表は、下記 URL の日本数学教育学会東京大会 web ページより、お申込みください。

※第一著者として発表できる研究の数は、1人1件とします(ポスター発表も含む)。

1. 申込期間 令和7年12月1日(月)～令和8年1月31日(土)
2. 申し込み先 URL <https://www.sme.or.jp/conference/national/>

申込内容

1. ☐研究発表 ☐ポスターセッション
2. 研究主題 ()
3. 希望部会 記号 [A B C D] () 部会
分科会第1希望 No. () 分科会
第2希望 No. () 分科会

◇都合により発表分科会を調整させていただくことがありますのでご了承ください。

◇研究発表の原稿作成等の詳細については、発表申し込み締切り後、大会事務局よりご連絡いたします。

【9】合理的配慮の希望について

障がい等の理由で、当日、お手伝い等が必要な方は、参加申し込みフォームに配慮事項をご記入いただき、大会事務局までご連絡ください。

【10】第108回全国算数・数学教育研究(東京)大会準備委員会事務局

本大会についてのお問い合わせやご連絡は、下記、東京大会準備委員会大会事務局宛にメールにて、お願いいたします。

第108回全国算数・数学教育研究(東京)大会 準備委員会

事務局長 東京学芸大学 清野辰彦

E-mail: tokyo108@sme.or.jp

※大会ロゴは、東京都立工芸高等学校・定時制課程グラフィックアーツ科 熊野 美樹さんに作成いただきました。
この場を借りて、心より御礼申し上げます。